

止々呂美

白島

箕面トンネルの北と南で シルバーパワー全開

止々呂美でゆずを一層香り高く大きく実らせるため、74歳の男性が自ら木にのぼり剪定に工夫をこらしています。また、白島では76歳のレモン農家がオーガニック栽培(有機栽培)で酸味豊かな実をたわわにみのらせています。



74歳剪定でたわわに実を

工夫重ね香り競う

76歳オーガニックつらぬく



▲すぐ横の自販機で直売

特産のゆづに取り組んでいるのは尾上喜治さん(止々呂美 936)。明治以前から代々継がれてきたゆづを育てていますが、尾上さん自身は15年前まではサラリーマン。リタイア後、種から育てる実生ゆづに本格的に取り組むようになりました。「桃栗3年、柿8年、ゆづの大馬鹿18年」と言いましてな、実をつけるまで時間がかかるんです。その分、香りはいいんですが…」と尾上さん。

たわわに実をつけるには枝を上へ伸ばすのではなく、這わせるように横へ伸ばすのがコツ。今シーズンも市民サポーターの協力を得て1400キロもの実を収穫しましたが、自らも3mほどの木にのぼり、枝をこまめに剪定していました。

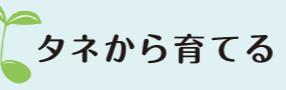
一方、オーガニック栽培でレモンづくりに取り組んでいるのは溝井繼明さん(白島2)。もともと稻作農家でしたが、21年前、温暖地を好むレモンを箕面で育ててみようと一念発起。愛媛のしまなみ街道まで出かけて育成方法を「修業」。今では1000mに約100本のリスボンという品種を植えています。

最も苦労するのは寒さ対策。リスボンの名の通り原産地は地中海。冬は寒さ厳しい箕面の山裾だけに3分の1しか実をつけなかつた年もあったそうです。害虫にも悩まされましたが、オーガニック栽培を貫いているとのことです。「香りよく酸味も豊富ですが、なによりもからだにいいものを作るのが信念なんです」と溝井さん。近くレモン畠を2倍に広げるようです。

マリア様と街中のツリー

坊島
1

坊島の「カトリック箕面教会フランシスコ修道院」の門前に
はマリア像と並んでクリスマスツリーが…。通りすがりの人々もつい見とれていました。



赤・白700株の葉牡丹咲きそろう

古井戸公園（西宿）の花壇にこの冬、赤と白の生け花葉牡丹およそ700株がびっしりと咲きそろいました。この葉牡丹はみのお園芸ファームの15人の会員が種から苗に育て、花壇に植えたものです。肥料配合のコツから殺虫剤の扱い方、散布方法を実習しながら育てました。この春には、腐葉土を作ったり、夏の花々を同じようにタネからまいて開花させるそうです。



花づくりに興味をお持ちの方は、みのお園芸ファーム（090-9092-3909 上田芳弘）までご連絡ください。

西宿
3

マンデビラ咲くおしゃれな住宅街



▲ ナチュラルガーデン風のお宅

第4回の「お花の街めぐり」は昨年11月、西宿3丁目の住宅街で行われました。花づくりの好きな人が多く住んでおられるのか、街路樹の根元や遊休地にキバナコスモスやアジサイ、モッコウバラが植えられていました。店の周りをみどりで飾っている喫茶店、庭を常緑樹と落葉樹をうまく組み合わせたお宅、白とピンクのマンデビラの咲く街…。道路からの目隠しボードをツルバラやハンギングバスケットの花々で飾った庭もおしゃれに感じました。なかには、茶室へ続く石畳に灯籠や蹲（つくばい）を配した庭も拝見しました。



▲ 茶室に続くお庭



▲ 窓辺のマンデビラ

「お花の街めぐり」次回は6月初めの予定です。

情報プランター

南小登校路の花壇に市が支援へ

本誌第5号で既報しました南小学校の登校路沿いの80mの花壇に市が来年度から助成対象となることが決まりました。この花壇は学校北側の住民の皆さんが7年前から幅50センチにわたって四季折々の花を咲かせているものです。しかし、道路外の学校用地だったためこれまで助成の対象とはならず、住民の皆さんが出費で苗や種を買って育ててきました。市道路課は沿道の学校用地の緑化も道路管理の一環とみなし支援することにしたようです。世話を続けてきた一人、山中倫代さんは「みんな高齢化してきたので毎年植え替えるのは大変です。多年草の苗を買うのに当たると思っています」と期待しています。



「NPO花とみどりの街づくり」—この4月から本格的な活動へ

まちなかのみどりのコーディネート組織「NPO花とみどりの街づくり・箕面」(略称:NPOみどりの街)が、この4月から本格的な活動を始めます。昨年11月に開かれた設立総会で、今後の活動方針として次のように決めました。

- ① 箕面のまちなかみどりの魅力アップのため市民、事業者、行政が協働で有効な事業をできるよう促進する
- ② 潤いある環境を保全し、若い世代の定住など街の活性化を進める



みどりの掲示板

桜並木通りを一新

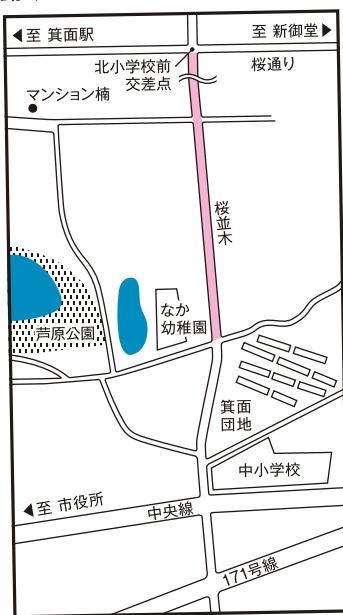
歩道をひろげ 老木リフレッシュ



桜並木道で知られている市道才ヶ原線は、桜の根が張って歩道は歩きにくく、ほとんどの桜は老木化して一部は既になくなっていますが、この春までに歩道が拡張整備され、約30本の桜が植え替えられることになりました。

この通りは道幅が狭いので、桜が咲く時季には花のトンネルのようになります、「大阪みどりの百選」にも選定されていますが、歩道が狭く自動車の通行量が多いので、普段は歩行者が避けて通る道になっています。そこで登校路になっている西側の歩道を車道側に拡張し、車道が狭くなるので車がスピードを落とすように交差点にはハンプ（車道の段差）が設けられます。

新たに植えられる桜はこれまでの「ソメイヨシノ」より強く寿命の長い「ジンダイアケボノ」ですが、残されたソメイヨシノと同時期に咲きますので違和感はないようです。



「みどりの街しんぶん」は、花とみどりあふれる箕面にしようと、年3回発行しています。近くにこんなきれいな花が咲いているよ、緑のすてきなスポットがあるよ、などの情報をどんどんお寄せください。

情報ご連絡先 shimin.puroj.midori@gmail.com 090-5651-0259(佐藤まで)

中学生ら箕面の山を大掃除



「箕面の山パトロール隊」の呼びかけで箕面1中の生徒や市民ら約160人が昨年12月7日、「箕面の山大掃除大作戦」に参加、滝道など4コースでゴミを回収しました。

1中から参加した男子バスケット部の1、2年生30人は教学の森コースに加わり、名残りのもみじを楽しみながら溝や林道わきに捨てられた紙くず、菓子の包み紙、空き缶などを手ばさみで次々回収していました。この日、4コースでざっと200kgものゴミを回収しました。

Column

ため池を景観資源に

箕面市内には池が100か所以上もあります。ほとんどが稻作用につくられた「ため池」です。かつては五穀豊穣のシンボルでした。私たちの先祖は、このため池からあちこちに水路を伸ばし高台の水田から低地の水田へと順次、貴重な水を分け合って稲を育ててきました。日照りが続いた年にはさぞかし深刻な水争いも起きたことでしょう。

ところが、コメ農家が減り始めた十数年前から一部の池はほとんど利用されなくなり、水がよどんだままになっている所もあります。布が池（稻5丁目）などは水が全くない空（から）池となり、水利組合も広い空き地の雑草刈りに苦労しているそうです。また、水難事故を防ぐため金網やフェンスを張り巡らせたり、災害などに備えコンクリートで池の周りを塗り固めた池もあります。

半面、今も「現役」のまま水田を潤おしたり、うっそうとした緑に囲まれ、水生生物やアオサギなど野鳥の棲み家になっている美しい池も残っています。芦原池や新稻3池のように親水公園化され市民の憩いの場となっている所もあります。それぞれの「歴史」や「個性」があるのですが、こうしたため池をなんとか景観保存したまま次の世代に引き継ぎたいのですね。

「暮らしの景観研究会」(川端常樹代表)がそんな願いを込め3月15日(土)午後2時から中央学習センターで、大阪府立大学大学院の加我宏之准教授や水利組合の代表者らを招いて「ため池フォーラム」を開くそうです。



▲釣果を狙うアオサギ＝芦原公園で

